

PMAJ 事務局長 殿

SIG 新設提案書(設立趣意書)

1. 新設提案 SIG 名

「博士人材と指導教員の醸成 SIG」

2. 提案者(発起人)

白井久美子(国際 P2M 学会理事・副会長、日本プロジェクトマネジメント協会・副理事長)

<設立時メンバー>

亀山秀雄(国際 P2M 学会 代表理事・会長、東京農工大学名誉教授)

山本秀男(国際 P2M 学会(元会長)理事・事務局長、中央大学名誉教授)

久保裕史(国際 P2M 学会・副会長、千葉工業大学元教授、日本プロジェクトマネジメント協会・理事)

小笠原秀人(国際 P2M 学会・理事、千葉工業大学 情報変革科学部教授、PMAJ 会員)

玉木欽也(国際 P2M 学会・評議員、青山 Hicon(株) 代表取締役、青山学院大学教授)

宮本文宏(BIPROGY グループ BIPROGY 株式会社、PMAJ 会員、MBA、PMR)

加藤亨(日本プロジェクトマネジメント協会・理事長)

深谷靖純(日本プロジェクトマネジメント協会・事務局部長)

※今後、PMAJホームページにて新規メンバーを募集予定。

3. 活動の目的

博士人材は高い専門性や国際性、課題設定・解決能力などの汎用的能力を備えた高度専門人材であり、イノベーション創出にも貢献することから、アカデミアのみならず、産業界での活躍が期待されている。海外では社会の様々な分野で活躍しており、我が国においてもその重要性と期待は非常に高まっている。

「博士を目指したい方が安心して学修できる環境を整え、高い専門性と汎用的能力を有する人材として活躍することを後押ししたい。」この思いから、「博士人材と指導教員の醸成 SIG」の設立を提案する。

4. 活動内容

- 1) 各種専門分野の変革・創発・革新(イノベーション)活動をけん引することが可能なプログラム&プロジェクトマネジメント力を有する博士人材、博士人材の指導教員を醸成する“仕組みの構想・実装”を、高等教育機関や学術団体・経済界と連携し行う。対応可能な分野、連携できる学術団体・機関とまず連携し、情報を収集、博士人材と指導者を醸成する仕組みに人材をのせ、中長期的に支援していくフレームワークを形成する。
- 2) 高等教育機関およびそれに準ずる機関で博士を取得したい人材について、企業側でのリカレント教育や、社会人経験の場の提供に値するインターンシップ制度をもつ企業の情報を収集し、学習者にとってわかりやすい博士修得へのステップに関するインデックスを作成する。博士取得希望者に紹介、相談にのれるインターフェースをもつ。

3)日本経済界の機関・企業・団体・高等教育機関及びそれに準ずる機関と連携し、産業界で新たな博士をどのように活かすのか、その活躍機会についても協議・検討し、博士人材の醸成に関する支援、協力をを行う。

5. 活動成果のPMAJへのフィードバック

次のような方式を想定する。

- ① 活動状況、中間成果短針などのPMAJジャーナル、オンラインジャーナルへの発信
- ② 「PMセミナー(講演会)」を実施し、社会人博士の醸成について普及・促進
- ③ 活動成果がある程度まとまった場合、年次PMシンポジウムで発表
- ④ 活動年度ごとの活動報告書を作成

6. 活動期間

継続的な活動を想定する。

7. メンバーの募集方法と運営ポリシー

1)メンバー募集方法

- ・ PMAJ HP を通じての公募
- ・ SIG メンバーとなった方の紹介

2)運営ポリシー

- ・ SIG 会合は奇数月に1回程度、メンバーで合意した時間帯に開催とし、ZOOM ミーティングないしはPMAJ会議室、または両者を併用して行う。
- ・ 意見交換などはe-Mail やPMAJのGoogle WS、BOX等の環境を利用して行う。
- ・ 運営はメンバー間のGive & Takeの原則に基づく。
- ・ 情報交換に当たっては、企業機密保護の原則に抵触しないよう留意する。

8. PMAJにとってのメリット

- ・ PMAJの強みである経済界、企業人との接点を活用し、当該活動の認知を向上し発展させて行くことで、PMAJ自体の会員数増強、P2M有資格者を増強し、日本の産業界における変革の推進と人づくりに貢献できる。
- ・ 会員が集って共通の関心事について掘り下げた研究活動を行うことで、PMAJへの求心力を高める。
- ・ 活動成果を積極的にアピールすることで、PMの実務者や経済産業界／学術団体への貢献となり、PMAJのミッションである日本の競争力強化につながる。
- ・ 活動を通して、PMAJのプレゼンスを高め、結果としてPMAJの会員活動の活性化、会員増につながる。

9. 予算措置

必要な場合は、別途申請し、承認を得る。

以上

参考)経済同友会と高等教育機関が連携して行う活動に関する一考(案)

※PMAJ はこうした活動とも連携が可能

未来を拓く博士人財の醸成と活躍推進 全体像

経済同友会と高等教育機関がお互いのリソースを提供し合い、双方にメリットがある持続可能な枠組みを検討

- ①大学院と連携し「博士人財」を対象としたキャリア教育(出張授業)やインターンシップの場を提供する
- ②大学・高専と連携し大学生/高専生対象のキャリア教育(出張授業)や「起業を目指す大学生/高専生」対象の教育フォーラムを開催する
- ③企業経営者に最短の博士人財醸成コースのあることを宣伝普及、動機付けし、実社会で博士を増やす(博士になれば指導教員への道が開かれる)

